

## 平成22年度 石山プロジェクト春学期報告会

10月14日(木)第1講義室にて(15時30分開始)、小学校で活動しているサポーターが、活動の様子や活動で気づいたこと、学んだことなどを報告しました。

学生23名、教員3名、京都新聞社記者1名の計27名の参加の中、学年部ごとに報告が行われました。



**1年生**グループからは、2つのエピソードを劇化した報告がありました。1つは一人遊びをしている子どもに気づかせるため、まわりの子どもに声をかけて遊びの輪を広げた先生の姿。もう1つは「女だからダメ」という子どもに、男だから女だからという見方はおかしいという指導場面です。報告のまとめとして、休み時間の子どもは友達関係等が見えやすいこと、仲間づくりのために先生も遊びの輪に入ることも大切だが、全体を見て子ども同士の関係づくりをサポートすることも大切だと言うことを学んだということでした。



**3年生**グループからは、印象に残った子ども・先生からの言葉が報告されました。その中で、「先生、ごめんなさい。ぼくがんばるから」という子どもの言葉の背景から、叱ることの難しさと必要性が報告されました。子どもたちをサポートする中で難しいと捉えられていることに、「叱る」ということがあります。今回の事例では、机を蹴ったことで近くの子どもの怪我をしそうになったことに対して叱ったこと、これまでは子どもに嫌われること、先生の指導の意図からのズレなどを考え、叱ることに躊躇があったが、サポーターは「子どもの成長をサポートする」ための活動であり、子どもがなぜ叱られたのかという納得と、次にどういう行動をとっていけばよいのかを共に考えることがあれば、叱ることも必要ではないかという報告でした。



**なかよし学級**の報告では、まず、毎日の学級での子どもたちの様子が紹介されるとともに、どのように学習が進められているのかを、パワーポイントでの資料提示と解説で行われました。

**6年生**グループからは、「先生の支援」と「クラブ活動での子どもの姿」という2つのテーマに沿って、高学年では子ども同士のつながりを大切にしていることや、高学年の子どもだから必要な支援の仕方などについて、担任の先生方の取り組みから学んだことが報告されました。



**2年生**グループからは、「初めてのサポーター」「先生の工夫」「2年生の成長」という3つのテーマで報告がありました。

**5年生**グループからは、「教師と生徒の距離感」「子どもの関心を引く授業」「妥協を許さない」「無関心の怖さ」というテーマで、それぞれが活動を通して感じたことを報告しました。



**4年生**グループからの「今年の漢字 2010」という活動を通して感じたこと漢字1文字での表現—例えば、「道」という字では、算数学習では、問題と答えの間に道があるが、教える側は最短距離の道で(効率的に)教えようとするが、それでは子どもたちは理解できない。子どもには複線的なわかり方があり、複線的な道の学習が必要なのでは—から始まり、「柔」「気」「間」という1文字報告が行われました。

学生報告の後、6月の省察会からお世話になっている。寺井先生と茂田先生から、助言をいただき、春学期の報告会は終了しました。春学期サポーターの皆さん、お疲れ様でした。